

令和6年度第4回 府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会議事録

▽日 時 令和6年10月25日（金） 午前10時から午前11時30分まで

▽場 所 市役所おもや2階 会議室 A201

▽出席委員 山本会長、松下副会長、齋藤委員、筒井委員、難波委員、森委員、山口委員、水橋委員、油井委員

▽欠席委員 野口委員

▽出席職員 町井建築施設課長、森影建築施設課長補佐、本木建築施設課文化・スポーツ施設老朽化対策担当副主幹、風間建築施設課公共施設マネジメント担当主査、奥建築施設課文化・スポーツ施設老朽化対策担当主査、毛利建築施設課技術職員、武内建築施設課事務職員、小林建築施設課事務職員

【関係課】高橋学校施設整備担当副参事（兼）学校施設課長、角倉学校施設課学校施設整備担当主幹、七里学校施設課老朽化対策マネジメント担当主査、平井児童青少年課長、大沢図書館長、桑原地域コミュニティ課文化センター老朽化対策担当主査、高増地域コミュニティ課中央文化センター所長、目黒スポーツタウン推進課長、塚本スポーツタウン推進課長補佐、山本スポーツタウン推進課施設係長

▽傍 聴 者 1名

▽内 容

1 あいさつ

2 議題

① 地域対応施設の機能連携・複合化検討の前提条件について

② 地域対応施設の機能連携と複合化に向けた取組について

3 その他

【配付資料】

資料1 地域対応施設の機能連携・複合化検討の前提条件

資料2 地域対応施設の機能連携と複合化に向けた取組

資料3 検討協議会スケジュール（案）について

会議録

(事務局)

皆様おはようございます。定刻となりましたので、「第4回府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会」を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、事務局より配付資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をご確認ください。

※配付資料の確認

資料の不足はございませんでしょうか。会の進行中、何かございましたら事務局までお声掛けください。

それでは、進行につきまして、会長、よろしくお願いいたします。

【次第1 あいさつ】

(会長)

それでは、第4回の公共施設マネジメントモデル事業検討協議会を開催いたします。

始めに、本日の委員の出席状況について事務局から報告をお願いします。

(事務局)

本日の委員の皆様の出席状況につきまして、出席委員の数が過半数に達していることから、本日の会議は有効に成立することをご報告いたします。

(会長)

次に、前回の協議会の議事録について事務局から報告をお願いします。

(事務局)

前回の協議会の議事録につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただき、文言修正等させていただいたものをお配りしております。なお、議事録の黄色の部分につきましては、非公開となります。そのほか、修正点がございましたらご指摘くださいますようお願いいたします。

(会長)

前回の議事録について修正箇所などありましたらお願いします。

それでは無いようですので、続いて、本日の傍聴の申し出の状況について、事務局よりお

願いたします。

(事務局)

本日の協議会の傍聴ですが、広報やホームページで募集しましたところ、1名の応募がありました。委員の皆様の承認を得て、傍聴者に入場していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

1名の傍聴希望者がいらっしゃるということですので、ご入場いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

それでは、傍聴者が着席するまで、少々お待ちください。

【次第2 議題】

(会長)

それでは本日の議題に入らせていただきます。始めに、議題①の地域対応施設の機能連携・複合化検討の前提条件について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1について説明させていただきます。

※資料1について説明

(会長)

ありがとうございました。地域対応施設の機能連携・複合化検討の前提条件について、説明がありましたが、ご質問やご意見はございますか。

(委員)

1ページの「稼働率・定員充足率からみる利用状況」は、いつ時点のデータになるのですか。第3会議室～第5会議室は、中央文化センターにしかない諸室です。例えば、第3会議室には、椅子が定員数の約3分の1しか配置されていません。定員の人数で使う場合は、椅子を追加で配置しないといけない状況です。そうした状況があるので、より大きな会議室を借りるということも起きているのではないのでしょうか。また、4ページの地図ですが、文化センターで言えば、「市民活動センター プラッツ」や「ルミエール府中」は会議室を有して

おり、同様に使うことができます。地域対応施設ではないですが、近接している他の公共施設についても、活用できるものはないでしょうか。

(事務局)

データの時点については、令和5年度となります。椅子の数が定員数より少ない点については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に、椅子の数を間引き、その影響もあったのかもしれない。

(委員)

「市民活動センター プラッツ」や「ルミエール府中」のような、関連する他の公共施設についても、地図への掲載を考えてみて良いと思います。

(委員)

中央文化センターで考えると、そうした施設が地理的に近く、類似した機能を有しています。そこが気になりました。

(委員)

参考情報として、次回そうした類似施設を地図に記載して欲しいです。

(事務局)

参考資料として整理して示したいと考えます。

(委員)

類似する施設という点で言えば、東京都立の施設もあるでしょう。そうした施設も地図に加えて欲しいです。

(委員)

可能な範囲で、記載してもらいたいです。

(委員)

施設の中の設備情報までは不要です。施設名から用途は把握できていると考えています。

(事務局)

配置の状況等、可能な範囲で整理して示したいと考えます。

(委員)

2 ページについて、面積と定員数に相関がありません。面積が狭いのに、定員数が多いという諸室もあります。定員数に関する統一的なルールはないのでしょうか。

(事務局)

定員数を各文化センターで設定しており、統一的な設定はなされていません。定員数については、今後、個々の施設の建替の際に、改めて検討していく事項と考えています。

(会長)

他にございますか。

それでは、無いようですので、続いて、議題②の地域対応施設の機能連携と複合化の取組について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料 2 について説明させていただきます。

※資料 2 について説明

(会長)

ありがとうございました。地域対応施設の機能連携と複合化の取組について、説明がありましたが、ご質問・ご意見はございますか。

(委員)

3 ページ～6 ページについて、「児童・生徒のセキュリティの確保」が気になりました。児童、生徒、保護者にとって学校は安全・安心な場所でないといけません。また、有事の際に、学校に行けば安全・安心に過ごせることが重要となります。地域の方が気軽に来られるということは良いイメージもありますが、反面、校内で事故や事件が起きて欲しくないです。気軽に入れるということは、不審者も入れる余地を残してしまうことになります。府中市は学校のセキュリティについて、どのように考えていますか。地域に開かれた学校とセキュリティをどのように両立させていくのか、考えを教えて欲しいです。

(事務局)

学校を軸とした複合化や機能集約を行う際は、学校のセキュリティを最大限担保する必要があります。一方で、学校を軸とした複合化は全国的に多く見られる事例ですが、地域毎にセキュリティへの考え方は様々あります。例えば、「南砺市立利賀小学校・南砺市立利賀中学校」の事例のように格子扉でエリアを区切っている事例もあります。一方で「志木市立志木

小学校」のように、動線をあえて分けず大人の目で児童を守るという方針の地域もあります。当市で学校の複合化を進める場合には、教育委員会と連携して、府中市の学校のセキュリティのあり方を最優先で考えていきたいです。現状、府中市では、学校の複合化の事例はなく、セキュリティの考え方を明確に伝えることができる状況ではありません。学校の改築を進めている中で、一般開放ゾーンの整備も進んでおり、今後、教育委員会でも議論が進んでいく内容と考えています。

(事務局)

学校のセキュリティについての考え方の現状を報告します。昨年3月の戸田市の事件を受け、府中市としても学校のセキュリティ強化に取り組んでいます。今年度から試行的に門扉の施錠管理、インターホンでの来客対応を導入し、数年間かけて全校に広げていきたいと考えています。府中市として児童、生徒の安全を第一に対応を考えていきます。改築に伴う学校開放については、府中第一中学校、府中第八小学校の改築事業では、会議室、家庭科室、和室等の地域開放に向けて検討を進めています。セキュリティ、維持管理、手続き、費用等の多くの課題があり、それらに取り組んでいるところです。

(委員)

学校の開放や複合化については、多くの事例がありますので、参考にしてみたいです。

(委員)

教育委員会もそうですが、PTAのような保護者との意見交換も重要になると思います。大学によっては、地域に開かれている一方で、セキュリティの観点で警備員が巡回しているということもあります。そうした事例も参考に考えていきたいです。

(委員)

義務教育学校と大学は少し違うかもしれませんが、参考になるかもしれません。

(委員)

セキュリティの話も重要ですが、府中市がモデル事業等を通して何をしていきたいのかということも重要となります。施設規模を小さくしたいということであれば、そこについて議論していくことになります。または、世代間の交流を生み出したいということであれば、セキュリティとの兼ね合いについて考えないといけません。府中市としてこういう公共施設にしたいということをもう少し整理して欲しいです。例えば、公民館で交流を促進したい場合、貸館機能だけでは借りている時間だけの利用となり、他と交流は生まれないというのは現実としてあります。交流を掘り起こしたい場合は、オープンな施設や場所が必要になります。一方で貸館機能を集約していくというのであれば、学校に複合化しセキュリティを担保して

いけば良いという話になります。何をしたいかでアプローチが変わってきます。

また、質問としては、4ページ～6ページの中に記載されている「敷地の制約上から想定する規模を確保できない可能性がある」というのはどういった意味になりますか。稼働率からは、各諸室比較的余裕があり、想定する規模を確保できないということは考えられないのではないのでしょうか。部屋数やテニスコートの面数が確保できないという意味合いなのか。

(事務局)

「敷地の制約上から想定する規模を確保できない可能性がある」というのは、仮に2つの施設を1つに機能集約した際に、集約先の敷地には限りがありますので、利用者のニーズを考えた際に、物理的に施設規模を確保できない可能性があるということを意味しています。

(委員)

諸室の稼働率に余裕があれば、集約しても充足できるのではないかという観点からの質問ですが、その点はいかがですか。

(事務局)

実際の稼働率含めて、適正な諸室の規模を設定することになります。適正規模に収まらない場合には、このまま複合化するのか、個別の建替を行うのかをその時に検討していくことになります。

また、府中市が何をしたいのかという点については、大前提として公共施設マネジメントの取組を通じて市の健全財政を維持していくことと考えています。府中市は、他市と比べても公共施設数が多い状況にあります。今後、そうした公共施設が一度に改修、改築の時期を迎えます。昨今、物価の上昇もあり、今後、満足に施設を整備していけない状況です。そうした中でも、可能な限りサービスを継続・向上させていきたいと考えています。今ある施設をそのまま建て替えていくのは財政的に厳しい状況にありますが、サービスの質を落とさないためにも、複合化等により施設規模を小さくしつつも、機能を担保していく必要があります。

モデル事業6の対象となる地域対応施設についても、効率的に施設の改修・改築を行い、サービスの質を担保していく方向性を見出すことができないかと考えており、委員にはその点を議論いただきたいと考えています。

本協議会においても、複合化等の取組の可能性についても検討いただき、府中市としてやっていくべきだとなれば、進めていくということを想定しています。

(委員)

メインは公共施設マネジメントであり、財政健全化を図りつつ、施設の最適化、安全性、

地域との交流も考えていきたいとのことを理解しました。

(委員)

1 ページの貸出利用者数は、貸出手続きをベースにカウントされたものであり、入館者数とは異なるということですか。

(事務局)

府中市では、貸出手続きをベースとした利用者数しかカウントしていません。閲覧等を目的に来館された方の数値までは含んでおりません。

(委員)

3 ページについて、「一方の施設跡地を別の目的に活用することが可能」と記載されていますが、具体的な活用方法が想定されているのですか。

(事務局)

跡地の活用については、これに使いたいということを想定しているわけではありません。敷地が空けば、そこに公共施設の整備や民間への貸し出し等の新たな可能性が見えてくるといえるものです。

(委員)

府中市として売却して収益を上げたいということではなく、土地を所有した上で有効な策を考えるという姿勢なのですか。

(事務局)

場所や状況次第と考えています。これまでも様々な事例がありました。長期的に契約して貸し出すこともあれば、売却するということも考えられます。

(委員)

具体的に何か想定されているわけではないということで良いでしょうか。

(事務局)

ご認識のとおりです。

(委員)

17 ページについて、文化センターや学校の全てについて、同じように組み合わせを考えることは難しいと考えています。モデル1、モデル2 というように、敷地の状況や規模から

モデルを作ると考えやすくなるのではないのでしょうか。

一方で、機能面から考えるモデルも重要になります。プールの授業で外部のプールを活用するという事例も他自治体にあります。クラブ活動のような学校機能を外部に出していくということをどこまで検討するかということです。また、学校が外部から取り込みたい機能はどういったものがあるのでしょうか。規模のモデルと機能のモデルを組み合わせると検討しやすくなるのではないのでしょうか。現状は、規模、機能を含めた全体でどうかという状況の整理になっています。全体のデータがあって、次のモデルの検討に進めるとしています。

なお、音楽室の扱いはどうなりますか。調理室、工作室、音楽室は、特別な目的のためにある諸室となっており、稼働率が低いです。これらの利用を向上させるにはプログラムが必要となります。公民館機能、児童館機能のようなソフトのプログラムを作れる施設と連携していない結果とも考えます。今まであった機能同士で考えるだけでなく、これからの公共施設に求められる機能を想定して、モデルを考えていく必要があると考えています。

(事務局)

物理的な距離から考えるモデルはあっても良いと考えています。ご指摘のように市内で一律の方針を設定していくことは難しいです。この地域ではこういう取組ができる、というような方向性を示すことが出来れば良いと考えています。物理的な距離や改築のスケジュールを示しつつ、全体的な方向性を示す部分と一歩踏み込んだ方向性を示す部分とを検討していきたいと考えます。

また、音楽室については、文化センターの会議室等でも音楽活動が行われています。今後、より音楽活動へのニーズに対応していくにはどうしたら良いかについても、考えていきます。例えば、「府中の森芸術劇場分館」には、音楽室が整備されています。そうした関連施設の状況も加味していきたいと考えています。

(委員)

物理的な距離だけでなく、機能面からも考えていく必要があります。また、文化センターや学校の改築のスケジュールに重要な要素です。そこと組み合わせで考えていくことが大切になってきます。モデルを示しつつ、パターン化もしていくということも必要です。

(委員)

学校等の公共施設の配置について、地図だけでは読み取りにくいですが、すでに隣接している施設もあります。例えば、府中第八中学校と府中四谷小学校、府中武蔵台小学校と府中第七中学校及び武蔵台文化センターなどが挙げられます。財政的な観点から言えば、敷地が隣接している施設は、複合化等を行った方が効果的ですし、実現可能性も高くなります。また、資料1の6ページの人口動態の出所を教えてください。

(事務局)

出所については、資料１の６ページの右下に記載があり、「国土数値情報 500m メッシュ別将来推計人口データ（平成 30 年国政局推計）」となっています。

(委員)

現在、国際通りには、マンションが８棟建設されています。また、現状の出生数から一定程度先の児童数までは、予測していくことができます。そうした状況が加味されているのかを知りたいという意味で、データの出所が気になりました。そうした人口動向を理解して、機能連携、複合化、機能集約のどの手法が望ましいのかを考えていくことが大切になります。

また、敷地が隣り合っている施設については、それらは優先して検討して良いと考えています。学校の整備スケジュールで、そうした隣接した学校の改築が同時に検討されているのかというのが気になります。例えば、府中第八中学校と府中四谷小学校の改築時期は同時期なののでしょうか。同様に、府中武蔵台小学校、府中第七中学校及び武蔵台文化センターはどうなのでしょう。一方を先に改築してしまった場合、後からではもう同時に改築を行うことはできません。そうした情報も分かりやすく示してもらいたいです。

(事務局)

物理的な立地や整備スケジュールから、複合化等が検討できる施設については整理して、次回の協議会で示していきたいと考えています。

(委員)

府中第七中学校と武蔵台文化センターは敷地が隣接しているとの話ですが、１５ページの整備スケジュールと照らし合わせて考えてみますと、武蔵台文化センターは第１グループですが、府中第七中学校は第１グループに入っていません。本当であれば、一緒に同時に検討できたものが、できないままになってしまうということになってしまいます。また、整備スケジュールだけで複合化等を行っていきますと、本当はこっちとの組み合わせも考えられたのにということにもなりかねません。隣接している施設同士を組み合わせるのか、もう少し広いグルーピングの組み合わせで考えていくのか、府中市の考えを整理していくのが良いと思います。

(委員)

１７ページの左下の青い枠のグルーピングについて確認したいです。物理的距離や整備スケジュールから考えると、文化センターだけを見た場合、西府文化センターと府中第五小学校の組み合わせが考えられますが、同じグルーピングの府中四谷小学校と府中第八中学校は、どのように扱っていくか、早急に検討していく必要があると考えています。

(委員)

府中第二小学校は多くの児童が在籍しており、教室が足りない状況です。府中若松小学校のような近くの学校との統廃合も含めて、対応方法を提案しても良いのではないかと考えています。改築スケジュールだけではなく、実際の児童数を加味した統廃合や複合化の組み合わせを検討していくのも良いと考えています。

(事務局)

学校の適正規模・適正配置については、別の「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」で検討しています。学校同士の統廃合や複合化については、その協議会での検討資料を提示することはできます。あくまで、当協議会では、学校と地域対応施設（文化センター等）の組み合わせを議論しており、次回はそうした施設の隣接状況等を加味した資料を示したいと考えています。

(委員)

そうした学校の統廃合の可能性について、可能な範囲で資料として示して欲しいです。

(委員)

学校同士の連携については、別の協議会の所管である旨を理解しました。府中第二小学校は築年数も比較的新しく、統廃合の検討から外れてくることは理解できます。しかし、府中四谷小学校と府中第八中学校については、築年数が同じです。この2つの学校は同時に考えた方が良いのではないのでしょうか。

(委員)

地図で見ると隣接していますが、東京競馬場のような大きな施設が間にあるというケースもあります。地図上では近くにあっても、生活圏が異なるため、行き来しないというケースです。そうした「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」での生活圏の議論と当協議会の議論で整合性が取れると良いと考えます。

(委員)

事務局から提案されたように物理的な距離でグルーピングするという形で、検討を進めて良いと考えています。ただし、例えば、府中第六中学校、府中第九中学校は距離的には近いですが、間に西武多摩川線が通っているといった個別の事象は別に考えていくのが良いのではないのでしょうか。府中四谷小学校と府中第八中学校の話であれば、統合すればプールは1つになることもあり得ると思いますが、現実的には小学校と中学校ではプールの規格が異なるという課題もあります。その場合は、可動床式のプールというのも選択肢としてあるかも

しれません。同様に、府中四谷小学校と府中第八中学校について、1つの学校図書館にした場合、蔵書の種類や図書室の利用方法の違いで、課題が生じないだろうかと懸念します。

(委員)

小中一貫校や義務教育学校で、学校図書館が1つというのは、よくあるケースです。

(委員)

そうした事例では、蔵書の扱いはどうなっているのでしょうか。

(委員)

学校によって様々ですが、各学年に広く対応できるように工夫がなされていることが多いです。

(委員)

距離的なグルーピング、機能の関係、整備スケジュール、財政的な負担等も加味して、検討を進めていきたいと考えています。昨今、資材費や労務費は大きく上昇しています。このままでは、府中市で施設の改修や建替を行うことも難しくなってしまうかもしれません。そうした状況を踏まえて、素案をまとめていきたいと考えています。

(委員)

「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」では、府中武蔵台小学校は規模が小さいため、なくしていく方向も検討するとなっていました。府中武蔵台小学校と府中第七小学校について、統合すると規模も妥当となると考えています。また、府中第七中学校も同様に規模が小さいため、府中第十中学校と統合することを期待するということもありました。府中第七中学校と府中第十中学校を統合する場合、学区が広くなりすぎるため課題も多くあり、2校の間にある空き地も活用するということもありました。そうした話も加味して、検討してみたいです。

(会長)

他にございますか。

それでは、無いようですので、議題3のその他について、事務局から説明をお願いします。

【次第3 その他】

(事務局)

資料3について説明させていただきます。

※資料３について説明。

次回、第５回の協議会の開催日程についてですが、１１月２２日（金）午前１０時から市役所おもや４階第１特別会議室を予定しております。

内容としては、本日議論いただきました検討の方向性やグルーピングについて取りまとめ、グルーピングを踏まえた取組手法の整理を行う予定でございます。

なお、以降の協議会につきましては記載のとおりで、第６回で答申（素案）、第７回で答申（案）をご確認いただく予定でございます。

（会長）

それでは、委員の皆様、よろしくお願いいたします。全体を通して、何か質問はございますか。

それでは、無いようですので、これで第４回の協議会を終了いたします。ご議論いただきありがとうございました。

以上